



企業理念	子どもを育てることの大切さを社会に浸透させ、包容力のある社会の実現に寄与します	事業理念	子どもの人としての尊厳をまもり、将来、社会の一員として自分の力を発揮できるよう支援します	
支援方針	一人ひとりにあわせたスモールステップを重ねることによって、心身の発達を促し「できた!」という経験を積み、“笑顔”を増やしていきます			
営業時間 / 休業日	10:00-18:00 / 日曜日（GW・年末年始）日曜日以外の休業日に関しましては別途ご案内申し上げます。		送迎実施の有無	無
プログラム実施時間	① 10:00-11:15 / ② 13:15-14:30 / ③ 14:45-16:00 / ④ 16:15-17:45			

プログラム	支援内容	5領域との関連性 「健康・生活」「運動・感覚」「認知・行動」 「言語・コミュニケーション」「人間関係・社会性」
準備（やることリスト）	準備（身支度）の工程を視覚化し、やることが明記されたシートを使用し、①から⑤まで順番に進めています。1つずつ確認して行なうため、次は何をするのか、何をしたら終わりのかを見通しを持って取り組むことができます。	健康・生活 認知・行動
はじめの会	小集団にて日付や曜日、天気の確認、本日のやること、自分の名前が呼ばれた際には返事をし、お友だちからの拍手で迎えられ、お友だちの名前が呼ばれ、お友だちが返事をした際には拍手をして迎えます。同じ空間で同じ会に取り組み、拍手等をもたらったり、また相手に行なうことで「仲間として認めてもらえる喜び」や「みんなの中の自分」といった"社会性"を育てています。 さらに日付等の基礎概念を学ぶとともに1日の見通しを確認し、安心してプログラムに取り組んでいただくための"はじまり"の会になっています。	認知・行動 言語・コミュニケーション 人間関係・社会性
運動プログラム（小集団）	感覚統合理論をベースとしたサーキット形式の器械運動になります。マット運動等によりできるものから少しずつ高度な刺激を増やしていき、感覚処理における凹凸を整えることで、日常の動作・行動における過敏さや不自由さを和らげたり、基本的な体の使い方・協調運動の動作を身に付けることで、姿勢の保持や日常生活動作（ADL（Activities of Daily Living））の向上につなげます。また、現代社会における協調運動の機会の減少においても鉄棒・とび箱他40以上の種目で必要不可欠な運動量の補完、及び心身の発達に関係しているといわれる運動内容の補完をします。小集団で活動することにより他者の取り組む様子を見たり、指導員の指示を守ることや手本通りに模倣をすること、支援・補助を素直に受け入れること等を通して、児童が安全面に留意する姿勢や集団の規律を守る気持ちを養います。さらに学校の体育の授業では、じっくりと学ぶ機会が少ない動作も補完します。	健康・生活 運動・感覚 認知・行動 人間関係・社会性
学習プログラム（個別） ※課題により実施人数に変動有	ADL（Activities of Daily Living）における日常生活動作訓練、VT（ビジョントレーニング）にて眼球運動や視覚認知機能の向上に向けた訓練、SST（ソーシャルスキルトレーニング）では対人関係やルール、マナー等他者との関わり方や集団での役割、感情のコントロールについて学びます。 手指の巧緻性向上を目的とした微細運動教具は100種類以上あり、個別支援計画書に沿って一人ひとり異なる課題を提供します。ビジョントレーニングでは跳躍性眼球運動やまちがい探し等楽しみながら眼球運動を行ない、ものを目で捉える力（インプット）や目で見たものを脳で処理（情報処理）する力、体を使って動かす機能（アウトプット）を高めています。SST（ソーシャルスキルトレーニング）では本来の個別学習だけでなく、集団あそび等を通してルールや関わり方、役割について学習します。	健康・生活 運動・感覚 認知・行動 言語・コミュニケーション 人間関係・社会性
帰りの準備（やることリスト）	ご来所されて行なった準備（身支度）同様に工程を視覚化し進めています。すべての工程が終わりましたら、職員に「できました！」とシートを渡します。	健康・生活 認知・行動
おわりの会	はじめの会同様、本日の日付や曜日、天気の確認を行なったあとは「今日がんばったことの発表」を行ないます。運動プログラム、学習プログラムからがんばったプログラムを選択してもらい、児童が選択したプログラムでのがんばったことを職員が振り返り、最大限に褒めていきます。発表が終わると職員やお友だちから盛大な拍手が贈られます。慣れてきましたら「なにを」がんばったのか「どのように」がんばったのかを発表してもらうこともあります。ここで大切なことは本日の活動における"達成感"になりますので発表することよりも大切にしていることは"できた！"という経験を積み、“笑顔”で終わることになります。たとえ選択できなくても発表できなくても職員が代弁したりフォローすることを大切にし、「できました」という気持ちを大切にしています。	認知・行動 言語・コミュニケーション 人間関係・社会性
家族支援		
送迎時に保護者さまへ利用中の様子をご報告させていただく他、サービス提供記録に連絡欄を設け、ご利用毎に文面でもやりとりを行います。定期的に保護者さまと面談を実施させていただき、個別支援計画に対してのモニタリング結果のご報告や今現在のお困りごとや心配ごと、課題を踏まえ今後の支援計画についてもヒアリングをさせていただきます。また、必要に応じて居宅訪問やオンライン等で相談援助を行なうこともあります（家族支援加算Ⅱ・Ⅲに同意）		
移行支援		
将来的な就学への移行に向けた準備や、ステージが変わっても主要な生活の場（学校等）が充実したものになるために一貫した支援が行なわれるよう支援内容のすり合わせ、情報の共有を行います。		
地域支援・地域連携		
通学中の学校等や他事業所と情報を共有し、連携を保てるようにします（関係機関連携加算に同意）		
職員の質の向上		
【職員の質の向上】 社内研修、外部研修により支援の質の向上や知識の幅を広げるとともに、日々のスタッフ間での意見交換や、プログラム毎の児童に対する記録の作成、共有の徹底により、一人ひとりの児童に対してきめ細やかな課題の提供を行ないます。また、全職員が共通認識を持って児童に対応できるよう定期的にカンファレンスを実施します。 【サービスの質の向上】 支援方針を全職員に周知し、目標達成へ向けた計画立案、さらに計画を実行し、結果どうだったのかを振り返り、検証を繰り返しながらやり方等を修正してサービス（プログラム）の質の向上を図り、職員一人ひとりのサービス（プログラム）の提供における習熟度を高めています。また、ガイドラインで定められた自己評価票、保護者評価票の内容をもとに改善すべき点や事業所の強み、弱みについて職員間で意見交換を交わし、効果的な取り組みやより良い施設へブラッシュアップできるよう検討を行います。		
主な行事等		
年2回以上の避難訓練を利用者参加の上実施		